

一般社団法人電気学会 電力・エネルギー部門 ニュースレター

目次

B部門大会の開催案内	1
B部門研究調査活動紹介	2
研究グループ紹介	7
学界情報	8
海外駐在記事	9
調査研究委員会レポート	10
用語解説／論文誌目次	11
特集号の論文募集	12
学会カレンダー	13
図書広告	14

令和2年電気学会 電力・エネルギー部門大会の開催案内と論文募集(第2報)

電力・エネルギー部門（B部門）は、会員および大会参加者の交流を深め活発な活動を図るため、下記の通り、令和2年B部門大会を開催し、講演論文を募集します。会員はもとより非会員の方の発表も歓迎します。

会 期 令和2年9月9日（水）～9月11日（金）

会 場 東北大学 川内北キャンパス
〒980-8576 仙台市青葉区川内41
<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/campus/O1/kawauchi/>

論 文 以下の2種類があります。

論文Ⅰ：内容のまとまった密度の濃い発表ができる和文または英文の論文。論文は原則4ページ以上とし、6ページを超過する場合、著者には超過分の費用（5,000円/ページ）を負担いただきます。ページ数の上限は14ページです。発表形式は「口頭発表」のみです。なお、29歳以下の方で、論文Ⅰをポスター発表することも希望する場合は、申込時にその旨を申告して下さい。ただし、ポスター発表件数によっては、希望に沿えない場合があります。

論文Ⅱ：研究速報、新製品、トピックスなど速報性を重視し、迅速に発表や紹介をしたい和文または英文の2ページの論文。発表形式は、「口頭発表」と「ポスター発表」があります。申し込み時にどちらか一方を選択して下さい。ただし、希望に沿えない場合があります。

論文Ⅰ、Ⅱで対象とする主な技術分野は以下です。

- (A) 電力系統の計画・運用・解析・制御
- (B) 電力自由化
- (C) 分散型電源・新電力供給システム
- (D) 電力用機器
- (E) 高電圧・絶縁
- (F) エネルギー変換・環境

発表方法

論文Ⅰ：30分（発表21分＋質疑8分＋交代1分）の口頭発表。討議が十分できる時間を取っています。
論文Ⅱ：20分（発表14分＋質疑5分＋交代1分）の口頭発表。ポスター発表はA0用紙1枚（縦）相当のポスターを指定した場所に掲示し、対応して頂きます。

表彰について

35歳以下の方が発表した論文Ⅰおよび論文Ⅱ（ポスター発表を含む）から、優秀論文発表賞を選定します。また、YPC（Young engineer Poster Competition）として、29歳以下の方による優れたポスター発表に対し、YPC優秀発表賞とYPC奨励賞を授与します。年齢は発表当日時点のものです。

申込方法

論文Ⅰ、Ⅱともに講演の申込をインターネットで行います。申込完了後に、論文原稿を提出して頂きます。

注意事項

申し込み頂いた論文は全て発表可能ですが、発表は1人1論文に限ります。ただし、上述の通り、論文Ⅰ申込者のうち、29歳以下の方でYPCでの発表を希望する方のみ、論文Ⅰ（口頭発表）とポスター発表の2回の発表を認めます。また、論文ⅠをB部門大会特集号（令和3年2月号予定）として論文誌に掲載希望される場合は、B部門大会への投稿と同時に、別途、各自で電子投稿・査読システムよりB部門大会特集号へ投稿して頂く必要があります。B部門大会では、特別講演、シンポジウム、懇親会および各講演会場において写真撮影し、ホームページ上などで公開することがあります。

講演申込／原稿提出期間（厳守）

	論文Ⅰ、論文Ⅱ
受付開始日	令和2年3月2日（月） 9時
講演申込締切日	令和2年5月11日（月） 17時
原稿提出締切日	令和2年5月18日（月） 17時

主 催 電気学会 電力・エネルギー部門（B部門）

共 催 電気学会 東北支部（予定）

そ の 他 大会参加の申込方法、プログラムなどの詳細につきましては、本会誌、B部門ニュースレターおよびB部門大会のホームページに今後掲載します。

問合せ先 〒102-0076 東京都千代田区五番町6-2 HOMAT HORIZONビル8F
電気学会 事業サービス課 電力・エネルギー部門大会担当
電話：03-3221-7313 FAX：03-3221-3704 E-mail：pes@iee.or.jp

電力・エネルギー部門研究調査運営活動のご紹介

電力・エネルギー部門 研究調査運営委員会

The R&D Steering Committee is working in planning and Steering of the Research and development of Power and Energy Society. In this article, activities of the committee of the last term are reported, and recent trend and future problems are also discussed. The process of planning and steering of the research and development, and the challenges to activation of Power and Energy Society are shown.

キーワード：電力・エネルギー部門誌，研究調査，調査専門委員会，研究会，研究調査運営業務

Keywords：IEEJ Transactions on Power and Energy, research and development, investigating R&D committee, technical meeting, R&D management

1. はじめに

電気学会電力・エネルギー部門研究調査運営委員会（以下、B部門研究調査運営委員会）では、技術委員会と同傘下の調査専門委員会や協同研究委員会等と協働し、会員の皆さまへのサービス向上、学会活動の活性化、社会への学会プレゼンス向上に向けた取り組みを行っています。

B部門の会員数は約7,700名と電気学会の部門の中では多くの会員の皆さまに参画いただいている部門であります。学会は、多くの会員の皆さまに活動いただくことで成り立つ組織です。しかし、2011年度以降、会員数の減少傾向が続いたことから、研究調査活動としても、様々な施策に取り組んで参りました。その結果、2018年度から会員数は増加の基調に転じました。本稿では、令和元年度（2019年度）の研究調査活動にかかわる様々な取り組みについてご紹介します。

2. B部門研究調査運営委員会の活動

現在、B部門研究調査運営委員会は、以下のように構成されています。

- ・委員長：1名（前年度に選出された副部門長）
- ・副委員長：2名（研究調査担当B部門役員）
- ・第1号委員：2名
- ・第2号委員：B部門傘下の技術委員会委員長
および電気規格調査会副会長
- ・幹事：1名

具体的な審議事項は、以下の項目があります。

- (1) 技術委員会の新設・廃止・統合および活動内容の変更等に関する審議
- (2) 専門委員会の新設・廃止・統合および活動内容の変更等に関する承認

- (3) 技術委員会委員の選定
- (4) 技術委員会が計画する研究会等技術会合の開催の調整
- (5) 電気規格調査会との連絡・調整ならびに技術委員会
が計画する電気規格関係の技術的調査の調整
- (6) 電気学会内の他機関からの要求事項に関する調整
ならびにそれらの機関との協同活動に対する支援
- (7) 他の学会またはその委員会等との協同活動に際し
ての協力ならびに調整
- (8) 技術報告および技術報告単行本の出版
- (9) その他、部門の研究調査活動の円滑な運営に資する
事項

B部門研究調査運営委員会は年4回開催しており、メール審議も併用することで、即応性を保ちつつ合理化を図っています。現在、表1に示すように10の技術委員会があり、各技術委員会の傘下には、令和元年11月30日現在で、23の調査専門委員会や協同研究委員会が活動しています。運営にあたっては、マニュアルを策定しており、委員会活動が円滑に行うことができるようにしています。次章では、各委員会の概要と活動を述べます。

3. 研究調査運営業務

〈3・1〉 静止器技術委員会 静止器技術委員会は1979年に設置された電力・エネルギー部門の中で最も古くからある技術委員会です。歴史の古い分野から最近話題の分野まで静止器に関連する研究分野を広く取扱っています。

委員会は年4回、活動内容は、調査専門委員会の新設・解散の審議、見学会（2019年度は宮古島メガソーラー実証研究設備を視察）、および、シンポジウム（2019年度は東北地区で「日本のライフラインを支える電力設備シンポジウム」を実施）の開催、電力・エネルギー部門誌における特集号の企画、電気学会論文発表賞の推薦、静止器技術委員会奨励賞の審査と授与などを行っています。

現在、4つの調査専門委員会を設置しています。具体的には、「持続可能社会実現に向けた高効率大電流エネルギーシ

表1 技術委員会と調査専門委員会/協同研究委員会 一覧（令和元年11月30日現在）

委員会名	総 数	内訳			設置	終了
		企 業	大 専	機 関		
1) 静止器技術委員会	19	11	5	3	1979/10/1	
持続可能社会実現に向けた高効率大電流エネルギーシステム技術 調査専門委員会（仮）	19	8	9	2	2020/2/1	2023/1/30
電磁界解析の先進技術応用調査専門委員会	50	24	26	0	2019/4/1	2022/3/31
変圧器・リアクトルの騒音対策に関する最新動向調査専門委員会	16	13	2	1	2019/10/1	2022/9/30
次世代直流送配電における電力用コンデンサの役割・性能調査専門 委員会	15	9	3	3	2017/4/1	2020/3/31
2) 開閉保護技術委員会	18	15	2	1	1991/4/1	
最近の直流及び交流系統に要求される遮断器の技術動向 調査専門委員会	14	10	3	1	2019/10/1	2021/9/30
中電圧スイッチギヤの保全に関するセンシング技術調査専門委員会	13	10	2	1	2019/10/1	2021/9/30
酸化亜鉛形避雷器の動作責務とエネルギー耐量に関する技術動向 調査専門委員会	18	13	4	1	2018/7/1	2021/6/30
3) 新エネルギー・環境技術委員会	17	7	6	4	1997/1/1	
再生可能エネルギーの大量導入に向けた水素利用発電技術調査 専門委員会	13	5	5	3	2017/4/1	2020/3/31
電磁界応答流体によるエネルギー・環境技術の新展開に関する 調査専門委員会	23	2	19	2	2019/7/1	2022/6/30
4) 原子力技術委員会	14	9	4	1	1979/10/1	
核融合炉シミュレーション技術調査専門委員会	14	4	7	3	2017/4/1	2020/3/31
福島第一原子力発電所廃炉に関わる放射線計測技術調査専門委員会	16	5	7	4	2018/4/1	2020/3/31
原子炉施設への無線通信技術導入に向けた技術動向調査専門委員会	18	12	3	3	2019/4/1	2022/3/31
5) 電線・ケーブル技術委員会	21	14	4	3	1979/10/1	
送電用ケーブルシステムの現状と技術動向調査専門委員会	16	11	1	4	2017/7/1	2020/6/30
6) 電力技術委員会	18	12	3	3	1979/10/1	
水力発電所における保守・保全業務の効率化に関する技術調査専門 委員会	19	18	0	1	2018/10/1	2020/9/30
配電設備の技術変遷と技術動向に関する調査専門委員会	29	23	3	3	2019/6/1	2022/6/1
7) 高電圧技術委員会	21	14	3	4	1979/10/1	
風力発電設備の耐雷健全性維持技術と法規制・規格調査専門委員会	48	33	10	5	2017/6/1	2020/5/30
電力設備等周辺の環境電磁界評価に関する最新動向調査専門委員会	19	7	6	6	2018/7/1	2021/6/30
一般電気設備における絶縁・EMC設計の解析手法高度化に関する 調査専門委員会	34	20	9	5	2018/10/1	2021/9/30
鉄道システムにおける耐雷技術の現状と課題調査専門委員会	34	19	11	4	2019/4/1	2022/3/31
8) 超電導機器技術委員会	20	12	5	3	1992/4/1	
磁気力を活用した新たな環境技術のフィージビリティと超電導の役割 調査専門委員会	15	2	11	2	2018/9/1	2021/8/31
超電導関連技術の医療応用調査専門委員会	14	7	4	3	2019/10/1	2021/9/30
9) 保護リレーシステム技術委員会	21	16	4	1	1995/4/1	
配電用変電所保護リレーシステム技術調査専門委員会	29	6	22	1	2019/10/1	2021/9/30
10) 電力系統技術委員会	18	12	5	1	1996/3/1	
電力系統における給電指令と系統操作調査専門委員会	23	16	6	1	2018/6/1	2020/5/31
総計（のべ人数）	696	399	214	83		

ステム技術調査専門委員会」,「電磁界解析の先進技術応用調査専門委員会」,「変圧器・リアクトルの騒音対策に関する最新動向調査専門委員会」,「次世代直流送配電における電力用コンデンサの役割・性能調査専門委員会」となっています。

〈3・2〉 開閉保護技術委員会 開閉保護技術委員会は、研究会の開催、調査専門委員会活動などを通し、ガス遮断器、ガス絶縁開閉装置、中電圧スイッチギヤ、避雷器など、電力系統の開閉保護装置の技術発展に貢献すべく活動しています。

関連する技術委員会と共に、毎年2回の合同研究会を開催しています。学生に対する英語論文発表奨励制度の導入や、隔年の国際ワークショップの開催で、国際的に活躍できる若手技術者の育成に取り組んでいます。

合同研究会では35歳以下の発表者を対象に、開閉保護研究発表賞制度を設けています。有識者の評価で成績優秀者に対し、表彰状と副賞を贈呈すると共に、学会HPへ掲載し、発表者のモチベーションアップと研究会のレベルアップを図っています。

2019年度は、「最近の直流及び交流系統に要求される遮断器の技術動向」,「中電圧スイッチギヤの保全に関するセンシング技術調査専門委員会」,および「酸化亜鉛形避雷器の動作責務とエネルギー耐量に関する技術動向」の調査専門委員会が活動しています。必要に応じ、アンケート調査や規格委員会との連携を図りながら活動を行い、技術報告や電力・エネルギーフォーラム、またB部門大会座談会や電気学会シンポジウムを通し、活動成果を発信しています。

〈3・3〉 新エネルギー・環境技術委員会 新エネルギー・環境技術委員会では、太陽光発電、風力発電、水素、MHD発電を中心として、新エネルギー・環境技術に関する国内外の動向や導入・運用実態の調査、将来に向けた課題の整理等を行うための4つの調査専門委員会による調査活動を行うとともに、年4回の技術委員会、年1回の見学会、FEScomm（未来エネルギーシステム談話会）の共催などを行っています。

現在、2件の調査専門委員会が活動中です。「再生可能エネルギーの大量導入に向けた水素利用発電技術調査専門委員会」では、再生可能エネルギーの余剰電力による水電解・水素製造および貯蔵技術や水素による発電技術等を調査しています。また、「電磁界応答流体によるエネルギー・環境技術の新展開に関する調査専門委員会」では、水素や再生可能エネルギーの高効率かつ電力変動保証を目指したMHD発電、電磁界応答流体を高度に利用した電力・エネルギー技術、電磁界応答流体の計測・数値解析技術等について調査しています。さらに、「島嶼・スマートコミュニティ」,「分散電源のリサイクル・リユース」,「再エネ出力や電力需要の予測」などをキーワードに、新たな委員会の立ち上げを準備しています。

〈3・4〉 原子力技術委員会 原子力技術委員会は、電気学会における原子力関連技術分野の全般を取り扱ってい

ますが、現在は、主に発電プラントの計測制御、放射線計測、核融合などの技術分野を中心に活動しています。原子力発電に関しては、2011年3月11日に生じた東日本大震災とそれに続く福島第一原子力発電所事故により、大きく影響を受けましたが、資源の限られている中で、産業を振興している日本において、エネルギーの安定供給は生命線であり、世界的なエネルギー需要の高まりの中で、原子力発電の重要性が再認識されるのもそう遠くないこととされます。原子力技術委員会では、そのような視点から、原子力発電技術の将来像を描くべく調査研究を進めているほか、委員会として国内の原子力施設の現状の把握につとめ、国内の原子力発電所等の見学会を継続的に実施しているほか、今年度より新設予定の技術研究会、年1回のシンポジウム等を行っています。また、原子力技術委員会のもとには、3つの調査専門委員会が稼働しています。「核融合プラント技術調査専門委員会」では、核融合炉プラントのシミュレーションモデル構築のために、各種数値計算技術の調査研究を実施しており、「福島第一原子力発電所廃炉に関わる放射線計測技術調査専門委員会」は、福島廃炉への対応を扱い、「原子力施設への無線通信技術導入に向けた技術動向調査専門委員」は、最新の無線通信技術の原子力施設への適用を目指した調査研究をそれぞれ実施しており、全体として、企業21名、大学17名、研究機関10名が参加しています。

〈3・5〉 電線・ケーブル技術委員会 電線・ケーブル技術委員会は、その設立が1979年であり長きにわたり技術調査活動を行っています。構成委員としては電線および電線付属品メーカー、電力会社、鉄道会社、大学、電線技術総合センターおよび電力中央研究所のメンバーにて委員長以下21名で活動しています。研究調査促進活動としては、調査専門委員会の設置、研究会（4回/年）、座談会、フォーラムなどの企画開催を行っています。特に最近では、電線ケーブル製品と技術的関連の深い誘電・絶縁材料技術委員会と連携した合同研究会の開催、同委員会主催の絶縁材料シンポジウムへの参加など、部門を超えた活動を活発に行っています。また2019年度は静止器技術委員会主催の「日本のライフラインを支える電力設備シンポジウム」への参加など、幅広く活動を行っております。これらの研究活動成果については全国大会シンポジウムや部門大会での報告ならびに技術報告の出版により広く公表されています。

調査専門委員会については現在、「送電用ケーブルシステムの現状と技術動向」の委員会が活動中であり、送配電線分野における時代要求に見合った総合的な技術調査を進めています。また次期調査専門委員会についても立ち上げを検討しております。

電線・ケーブルは電力の安定供給を担う重要な社会インフラであり、それらの技術確立にいたる社会的背景と開発経緯とを明確にして技術継承していくことは、重要な社会的責任と考えて活動を行っています。

〈3・6〉 電力技術委員会 電力技術委員会では、発電、

送電、変電、配電、パワーエレクトロニクス技術の分野における研究調査活動を行っています。技術委員会傘下の調査専門委員会、協同研究委員会は、常時概ね 3~4 委員会が活動しており、2019 年度は、「水力発電所における保守・保全業務の効率化に関する技術調査専門委員会」、「配電設備の技術変遷と技術動向に関する調査専門委員会」、「多端子連系をはじめとする直流送電の最新技術動向調査専門委員会」が活動しました。これらに加え、電力系統技術委員会と合同で、毎年 100 件を超える論文発表が行われる B 部門最大規模の研究会の企画・運営も行っています。最近では、離島における電力技術をテーマとし、海外の研究機関とも連携した英語による研究会（International Workshop on Power Engineering in Remote Islands (IWPI2019)）を開催するなど、国際活動にも力を入れています。

〈3・7〉 高電圧技術委員会 高電圧技術委員会では、高電圧の発生・測定、高電圧試験、雷現象、過電圧と絶縁協調などの高電圧分野を対象に研究調査活動を推進しています。技術委員会は年 4 回開催し、傘下の調査専門委員会の活動状況を審議するとともに、これまで設置された調査専門委員会および既発行の技術報告を年次的に分析することで、各テーマの技術課題を洗い出し、中核となる技術者・組織を体系化したロードマップを作成し、これを基にして、高電圧分野における新規課題の発掘や既存課題の計画的な技術継承に取り組んでいます。

技術委員会傘下の調査専門委員会には、風力発電設備、高圧配電線、鉄道、送変電設備・一般電気設備を対象とした耐雷設計（4 委員会）、電力設備周辺の環境電磁界評価（1 委員会）があり、今後の社会情勢を見据えた比較的新しい観点からの動向調査をしています。また、年 4 回程度開催している研究会では、毎年 100 件前後の論文発表が行われています。また若手研究者を対象とした奨励賞を設置するなど、若手の人材育成にも尽力しています。

〈3・8〉 超電導機器技術委員会 超電導機器技術委員会は、超電導技術の発展拡大を背景にして 1992 年に設立されました。設立当初は超電導応用電力機器技術委員会と称しており、電力機器を中心とした技術委員会活動を進めていました。その後、超電導技術の応用範囲が電力機器にとどまらず、医療・交通・産業・理化学機器、加速器などに広く拡大したため、2013 年に超電導機器技術委員会と呼称を改め、活動範囲を拡張して現在に至っています。

本技術委員会では、これまで技術調査活動、シンポジウムや研究会、フォーラムや見学会の開催など、多岐にわたる活動を進めてきました。技術調査専門委員会では基礎的な技術から機器技術までを幅広く調査し、その結果を展開してきました。なかでも、超電導磁気分離に関わる調査専門委員会活動は 10 年以上の長期にわたり継続的に実施され、福島の除染技術の調査や見学、夏の学校や国際フォーラムなどの定期的な開催などの意欲的な取り組みを進めています。

2019 年度の調査専門委員会は、「磁気力を活用した新たな

環境技術のフィージビリティスタディと超電導の役割調査専門委員会」、「超電導関連技術の医療応用調査専門委員会」により活動を行いました。

〈3・9〉 保護リレーシステム技術委員会 保護リレーシステム技術は、近年、電力系統の大規模化、複雑化とともに、電力の供給信頼度と保安の確保への要請の高まりや、再生可能エネルギーなど分散電源比率の増大、スマートグリッド、変電所無人化など電力流通システムの業務運営の効率化対応への必要性の高まりから、単に系統保護技術だけにとどまらず、構成機器や設備の正常・異常時の挙動を定量的に把握するための系統解析技術、センサー技術、マイクロコンピュータ応用技術、デジタル通信技術などさまざまな分野の技術を総合し高度に専門化されたシステム技術となっています。本技術委員会では、現在および将来の系統の発展・拡大に対応した保護リレーシステム技術を確立するとともに、関連する分野と連携した活動により保護システムの重要性和魅力を広く訴え、世界をリードできる次世代の技術者を育成し、分野の一層の発展に寄与することを目的に活動を行っています。2019 年度の活動状況は、技術委員会 4 回、幹事会 4 回、設備見学会 1 回、研究会 2 回、専門講習会 4 回、国際標準化に関する情報交換会等となります。

また、現在、「配電用変電所保護リレーシステム技術」調査専門委員会を設置しています。

〈3・10〉 電力系統技術委員会 電力系統技術委員会は、電力系統工学に関する系統的な調査・研究・教育活動を行い併せてこの分野の研究者・技術者の育成と技術の進歩に寄与するため、1996 年に設置された技術委員会で、新しい電力系統技術の発展に貢献するべく活動を展開しています。

本技術委員会は、電力系統技術に関連し、1) 系統計画、需給計画、電源計画、エネルギーミックス、アセットマネジメント、2) 需給運用、系統運用、制御システム、3) スマートグリッド、需要側管理、4) 分散電源、5) 系統解析、シミュレーション、予測技術、6) 電気事業制度、電気事業経営、環境評価、7) 情報処理、情報通信、サイバーセキュリティ、に関する技術分野を主な活動範囲としています。

具体的な活動内容は、技術委員会の開催（年 4 回）、研究会の開催（PE との合同研究会：年 1 回、SPC・PE との合同研究会：年 1 回、単独研究会：随時）、調査専門委員会の運営支援、見学会の開催（年 1 回）となっています。調査専門委員会の運営支援、見学会の開催（年 1 回）となっています。調査専門委員会は、電力系統における給電指令と系統操作調査専門委員会があり活動をしています。

4. 会員サービス向上と活性化に向けた取り組み

B 部門研究調査運営委員会では、効率的かつ意義のある運営を行うため、組織や規約、ガイドラインの制定等を常に見直し、PDCA を回しながら運営を行っています。

研究調査活動の成果を広く社会に発信する観点から、B 部

門大会でのシンポジウム、全国大会でのシンポジウムは益々重要になっています。昨年度はB部門大会30回の節目の年であったことから、B部門大会でスペシャルセッションを企画し、西日本豪雨の教訓を踏まえた防災・減災について土木学会に所属いただく先生方にも出席いただき、討論いただきました。また、同大会期間中、ホットなテーマとしてブロックチェーンに関するランチョンセミナーを開催し、非会員の方々にも多数、参加いただきました。

国際化に関しては、ICEE、IWHV、タイ合同シンポジウム等の運営と協力を行っています。タイ合同シンポジウムは、2010年にIEEE PES ThailandとB部門との間で締結した協力協定と合同シンポジウム協定に基づき毎年開催していますが、昨年度はタイのチェンマイにて、iEECON (International Electrical Engineering Congress) 2020に併せて電力系統の新技術をテーマに2020年3月に開催しました。

若手支援では、学生ランチの開催の支援、全国大会や研究会での優秀論文発表賞の推薦や、各技術委員会からの奨励賞の推薦と授与を行っています。昨年度は、広く若手の参加を促すため、学生の研究成果の発表を行う場を再構築し、新たに高校生みらい創造コンテストとして、また大学生までを対象としたU-21学生研究発表会を新たに企画し、全国大会で開催しました。

更に、編修委員会と協働しながら、研究会論文の座長推薦、査読委員の増員、特集号の企画提案などの協力も行っていきます。共通英文論文誌の活性化に向け、若手の優秀論文の翻訳助成も昨年度より開始しました。今後、電気学会を持続可能な組織としながら更に発展させていくため、B部門役員会や編修委員会と協働しながら、会員サービス向上と活性化に向けた取り組み（国際化、若手への支援）を進めてまいります。

5. おわりに

本稿では、令和元年度（2019年度）の研究調査活動を振り返るとともに、今後の施策の御提案も含め、研究調査業務にかかわる様々な取り組みについてご紹介しました。

B部門研究調査運営委員会の運営は、ボランティア活動により成立していますが、会員の皆さまにとって有益なものになるよう鋭意努力して参ります。皆さまのご理解を賜りますとともに、更なる改善に向けて忌憚のない御意見、御要望、企画案等をB部門誌研究調査運営委員会宛（連絡先：電気学会 事業サービス課 気付 iinkai@iee.or.jp）にお寄せいただければ幸いです。

執筆担当：委員長	蘆立 修一（東京電力ホールディングス）
先任副委員長	高尾 智明（上智大学）
後任副委員長	上薨 誠二（富士電機）
幹事	中澤 勇（富士電機）
1号委員	保科 好一（東芝エネルギーシステムズ）
	小林 広武（電力中央研究所）
2号委員	
静止器	腰塚 正（東京電機大学）
開閉保護	岩田 幹正（電力中央研究所）
新エネ・環境	加藤 丈佳（名古屋大学）
原子力	高橋 浩之（東京大学）
電線・ケーブル	穂積 直裕（豊橋技術科学大学）
電力	根本 孝七（電力中央研究所）
高電圧	本山 英器（電力中央研究所）
超電導機器	前田 秀明（理化学研究所）
保護リレーシステム	川上 智徳（関西電力）
電力系統	北 裕幸（北海道大学）
電気規格調査会	高木喜久雄（東芝エネルギーシステムズ）